「ぐんま総合情報センター」7月5日、銀座にオープン

情報発信機能強化、企業誘致や物販も

群馬県のＰＲとイメージアップを目的にした「ぐんま総合情報センター」（愛称・ぐんまちゃん家（ち））が７月５日、東京都中央区銀座５丁目にオープンする。観光案内、パブリシティはもちろん、企業誘致や物産販売、市町村・関係団体のイベント、Ｕターン情報の提供など、業務範囲は多岐にわたり、「群馬の魅力を総合的にアピールする拠点になる」と初代所長の金子敏男氏は力を込める。

中央区京橋からの移転を機に、従来の「群馬観光物産プラザ」はぐんま総合情報センターとなる。晴海通りと昭和通りが交差する角に建つデュープレックス銀座タワー５／13の１～２階に入居（総面積約２８３平方㍍）。地下鉄の東銀座駅がすぐ側とアクセスも良く、土地柄、外国人旅行者の取り込みも視野に入れる。

１階の入口。観光案内と物販がメーンだ（６月30日撮影）

２階のイベントスペース。ガラス張りで、外からもよく見える（６月30日撮影）

センターが入居するビル。1～2階を使用

「多岐に渡る業務とぎれない催事」

金子敏男所長が抱負

――群馬観光物産プラザ改め、ぐんま総合情報センターがいよいよオープンする。

「群馬の魅力を総合的にアピールする拠点で、県が中心になって展開する。パブリシティ、観光案内といった従来の業務に加え、物産販売から市町村・関係団体などのイベント、企業誘致、Ｕターン情報提供、県民の交流拠点の役割まで担う。首都圏在住の群馬県民は２００万人近くいる。その方々の心休まる場にもしたいものだ」

――平河町の東京事務所とはどう違うのか。また、今の場所（中央区日本橋）に来たのは？

「東京事務所は国会や省庁の情報収集と調整、全国知事会との調整が中心で、センターとは業務内容が全く異なる。現在の場所には昨年２月にきた。それ以前は、すでに移転してしまったが、日本観光協会が入っていた京橋のセントラルビルにいた。今度は銀座５丁目と転々としているようだが（笑）、関東地方の県で都内にこのセンターのような機能を持っているところはない。試験的な面もあるが、全国でも例を見ないと思う」

――人員は。

「現在のスタッフは12人だが、２～３人増員する計画だ。スペースをできるだけ広くとるため、職員に事務机は与えず、テーブルを共有する。イベントの手伝いやパブリシティの制作、企業訪問などやることはたくさんある。公務員感覚では務まらない」

――ビルの１～２階がセンターのスペースだが、それぞれどんな機能を。

「１階は観光案内と物販、２階はイベントスペースにあて、途切れなくイベントをやる。５～９日までは『群馬の観光物産展』で、以後、『尾瀬・谷川の自然と物産』『世界遺産とシルクフェア』などを予定している。また、県立女子大の協力を得て、『群馬学』といった講座の開講や入学説明会も実施する。営業時間は９時から20時まで。休みは年末と正月ぐらいで、ほぼ年中無休となる」

――銀座がすぐ側で、歌舞伎座や築地にも近く、立地条件に恵まれているが、それだけでは客は来ない。

「確かに。まず駅張りポスターをＪＲの主要駅や東京メトロの銀座駅や東銀座駅などに掲出するとともに新聞の折り込みチラシも作る。来場者には粗品を送り、あわよくばリピーター化したい。すぐ側には歌舞伎座があるが、そこで発行されている会員誌『鳳凰』にも広告を打つ。そのほか、都内に住む群馬県民へのダイレクトメールも行う。とにかく積極的に情報を発信していく」

――どのくらいの集客目標を見込んでいるか。

「日本橋の事務所の場合でも群馬ファンの方や旅行会社の社員など年間約１万人の来客があった。センターではその10倍、10万人を目指す」

――銀座周辺は外国人旅行者も多い。外客の取り込みは。

「英語を話せる日本人職員を雇う考えだ。県観光国際協会にも語学堪能な職員がおり、足りない場合はスタッフを派遣してもらう」

――公務員感覚ではやれないといったが、スタッフの意識改革は。

「単なる県の出先機関ではない。サービス業だという意識を徹底させる。あいさつの仕方、言葉遣い、私語の禁止などを指導している」

――初代所長だが、意気込みは？

「『他県と同じ戦略はとらない』『仕掛けなければ浮上しない』『口をあけて待っていても客は来ない』をモットーにこれまでやってきた。例えば、先ごろ終了した緑化フェアだが、マスコミとは企画の段階から支援要請をお願いし、旅行会社のツアーについてもできる限り材料を提供した。その結果、目標の１００万人を上回る１４２万人を集めることができた。総合プロデューサーという意気込みでセンターを運営していく」

愛称　ぐんまちゃん家（ち）

「ぐんまちゃん家」。ぐんま総合情報センターの愛称だ。ぐんまの法被を着たキャラクター「ゆうまちゃん」がセンターオープンを宣伝する＝**写真**。

群馬県が２月27日～３月17日の期間、愛称を公募したところ、約２５０件の応募があった。

「ぐんまちゃん家」のほか、「群馬プラザ風雷館」「ぐんまだんべぇプラザＧＩＮＺＡ」「ぐんまふれあいの郷」などの名称が寄せられたが、愛称選考委員会で審査、検討の結果、県職員が応募した「ぐんまちゃん館」を修正し、ぐんまちゃん家に決まった。

ゆうまちゃんは94年に登場したキャラクターで、こちらも県職員が描いたイラストを元に制作された。